

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名： 通所介護 くらしの家

施設種類： 認知症対応型通所介護

日時： 令和7年6月25日 10:30～11:30

会場： 通所介護 くらしの家 相談室

出席者：

利用者代表	0人	第三者委員	1人
利用者家族	1人	出雲高齢者あんしん 支援センター担当職員	1人
事業所職員	2人		

(議題)

1. 挨拶
 2. 自己紹介
 3. 活動報告
 4. 意見交換
 5. その他
3. 活動報告（事業利用状況、及び前年度との比較による運営状況）
- 1) 月別利用延べ人数（R6年度実績とR7年度実績の比較と傾向）
 - 2) 曜日別登録者数（R7年1月とR7年5月の比較）
 - 3) 利用者の介護度（R7年1月とR7年5月の比較）
 - 4) 紹介居宅事業所数（R7年1月とR7年5月の比較）
 - 5) 利用者の平均年齢（R7年1月とR7年5月の比較）
 - 6) 自主事業（R6年12月～R7年5月の実績）
 - 7) 職員資格（R7年1月とR7年5月の比較）
 - 8) 一日の流れ
 - 9) 年間行事計画
 - 10) 防災訓練（地震・津波の想定）
 - 11) ボランティア
 - 12) 苦情・ひやりはっと・事故報告
 - 13) 職員会議、職員研修
 - 14) 事業所環境整備状況

4. 意見交換（評価、要望、意見、助言等）

第三者委員：見守りボランティア1名となっているが、何日来られたか。これは高齢者の見守りか。

くらにし：身内に看護師学校へ通っているものがいて、勉強にもなるし、こちらも見守りの目が沢山あると助かるので1日来てもらった。

利用者家族：私の家内は先週介護住宅に入所した。この施設を選んだ理由はくらにしに来るのが本当に楽しいと言っているため、くらにしに送迎してもらえる距離の施設を選んだ。家内は認知症になり、だんだん社会が狭くなっていった。家にいると家族との会話は少ないが、くらにしから帰ると笑顔で桜や藤の花を見に行ったなどと話してくれた。テイクアウトで大福を食べたと話した時は、大社のとみやさんの大福だったから買ってこいと言われ買いに行きました。迎えに来られる職員はみんな笑顔で挨拶して下さり、本当に良くして頂いている。

あんしん：今はどの地区の方が多いか。

くらにし：大社地区が多い。西は湖陵町、東はドームの方で、片道20分までの範囲で受けている。

あんしん：送迎車は何台か。

くらにし：軽自動車4台で送迎している。くらにしの家以外の施設は専属の運転手がいるが、くらにしの家は認知症対応のデイのため、顔なじみの関係でないと難しい所がある。送迎もケアの1つとなり、昨日の様子を伺ったり、排便状況を伺ったりと家族と連携をとる時間でもあるため、運転だけというのは出来兼ねている状況。

あんしん：自主事業の入浴だが、利用者でなくても利用できるか。

くらにし：契約はしていただいている。以前利用されていた方で、入浴はされてもすぐに帰りたいと帰宅願望が強くあり、手が出る方がおられた。短時間利用だとサービス利用に満たない場合があり、またご家族としてもお風呂だけでもという思いがあり、こちらとしてもお風呂代だけでもという事で入浴の自主事業を導入した経緯がある。慣れてくれば1日利用を目指す事を前提としている。

第三者委員：今回は苦情・事故0という事で、ヒヤリハットを共有しながら学習していると思うが、数にこだわらず、大変だと思うが頑張ってもらいたい。季節ごとの行事もやって大変だと思うが、事故がないように。職員が一緒になって楽しむ事が大切。利用者はちゃんと感じ取っておられるものだと思う。

5. その他

年間の活動写真を見ていただく。